

高松市教育委員会
保健体育課長 殿

学校名 高松市立太田小学校
校長名 榎 貴志

公印
省略

令和5年度 高松市防災教育講師派遣事業報告書

次のとおり、標記事業を実施したので、報告します。

学 校 の 名 称	高松市立太田小学校
派 遣 内 容	高松気象台「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」
日 時	令和5年 10月 3日（ 火 ）13：30 ～ 15：10
場 所	体育館
対 象 者 数 参 加 人 数	児童数 131 名 クラス数 4 クラス 教職員 4 名 その他 0 名
内 容 ・ 日 程 等	高松気象台の職員の方による講話 質疑・応答
取 組 に お け る 成 果	・ワークシートを用意してくださり、クイズ形式で災害から身を守る方法を児童が考える時間をとっていただいたおかげで、まずは自分でしっかりと考えることができた。 ・ペットボトルで雲をつくる体験も入れていただくことで、楽しく学ぶことができていた。 ・クイズの答え合わせと動画視聴により、積乱雲がもたらす大雨・雷・竜巻の現象や災害発生時の備えや対応の仕方について考えることができていた。特に、災害後の様子や多様な実験の様子を伝える動画を見ることで、災害時の正しい行動を強く意識することができた。
今 後 の 課 題	30分前には来校し、準備していただいていたので、スムーズに進めることができ、ありがたかった。講師の方の滞在時間が予定より長くなり申し訳なかった。

注) 当日の写真、資料等がありましたら、添付してください。



見のがさないで！
積乱雲が近づくサイン

かみなり たちまき
急な大雨・雷・竜巻から
身を守ろう！
— 気象防災ワークシート —

気象庁
Japan Meteorological Agency

かみなり
雷が聞こえたとき

友だちと公園にいたら、遠くから雷の音が聞こえてきました。そんなとき、どのようにすればよいと思いますか？
下の例のうち、正しいものには○、まちがっているものには×をつけて、その理由を書いてみましょう。

- 身に付けている金属のものをすべて取れば安心。 (×)
理由 金属を身に付けているかどうかは雷に関係ないから。
- 大きな雷の音が近づくまでは、ようすを見る。 (×)
理由 雷の音が遠くでなくても、次の雷は今の場所に来る可能性があるから。
- 雷が光ってから音がするまで10秒以上ならだいじょうぶ。 (×)
理由 秒数にかかわらず、音が聞こえたらすでに安全ではないから。
- 木の下にひなんする。 (×)
理由 木を伝わって人に雷が落ちることがあるから。
- 近くのしっかரிした建物にすぐにひなんする。 (○)
理由 雷に打たれる心配がなくて安全だから。

たちまき
とつぜんの大雨のとき

友だち同士で公園へ行く途中、急に大雨がふってきました。そんなとき、どのようにすればよいと思いますか？
下の例のうち、正しいものには○、まちがっているものには×をつけて、その理由を書いてみましょう。

- 雨が止むまで橋の下で待つ。 (×)
理由 その場所や川の上流の大雨で、急に川の水がふえて危険だから。
- 建物や駐車場の地下に入る。 (×)
理由 地下に水が流れこむとにげ出せなくなって危険だから。
- 近くの建物の1階以上の場所で雨宿りする。 (○)
理由 雨や雷をさけて、安全に過ごすことができるから。地下は危ないから。
- 大雨の中を走って帰る。 (×)
理由 大雨の中だと車にぶつかる危険がある。また、道路に水がたまり側溝などに落ちると危ないから。

たちまき
竜巻が見えたとき

友だちと外にいたら、竜巻が見えました。そんなとき、どのようにすればよいと思いますか？
下の例のうち、正しいものには○、まちがっているものには×をつけて、その理由を書いてみましょう。

- すぐに頑丈な建物へひなんする。 (○)
理由 建物が竜巻にふき飛ばされないから。
- 竜巻が近づいてこないかどうかを窓から見続ける。 (×)
理由 窓ガラスが割れて飛びちるとあぶないから。
- できるだけ窓からはなれる。 (○)
理由 窓を突き破って飛んでくるものから身を守るため。

ここまで学んできた、急な大雨・雷・雹を巻き起こす原因は、発達した積乱雲です。積乱雲とはどのような雲で、私たちは自分の身を守るためにどうすればよいのでしょうか？

もう一度、ふりかえてみよう。



積乱雲ってどんな雲？

夏によく見られる、もくもくとした形で空に高くのびる大きな雲を積乱雲といいます。積乱雲は、急な大雨や雷、雹といった激しい自然現象を引き起こし、それが原因で人が死亡する事故も毎年のように起きています。



積乱雲はかみなり雲とも呼ばれています。

あっという間に変わる天気

一つの積乱雲が発生してから雨をふらせて弱まるまでの時間は、30分から1時間くらいです。そのため、今は晴れていたり、小雨だったとしても、あっという間に天気に変化して危険な状態になります。



わずかな時間で雲のようすが大きく変わります。

出かける前に天気予報のチェック



出かける前には天気予報をしっかりと確認しましょう。「大気の状態が不安定」「天気が変わりやすい」「雷雨に注意」といった言葉が出てきたら、注意が必要です。

4

どんな危険があるの？

大雨の水辺では

川の水が急げきにふえて、川原にとり残されたり、流されるおそれがあります。自分がいるところに雨があまりふっていないとしても、上流に黒い霧がある場合には大量の水が押しよせてくるかもしれないので、すぐに川の近くからはなれましょう。



大雨の道路では

道路に水がふれて川のようになってしまうことがあります。そうした中で歩くのはとても危険です。水の流れて足をとられ、足もとも見えないので側溝やマンホールに落ちてしまう可能性があります。



雷のときは

雷に打たれて、二脚で命を落とすおそれがあります。



木に落ちた雷が人に伝わることがあるので、木の下は危険です。

電気がおこると

猛烈な風に巻きこまれて、人はもちろん、車や組み立て式の小屋などもふき飛ばされてしまいます。風で飛ばされたものが超スピードでおそってくることもあり、大けがや死亡のおそれがあります。



落下物による被害

「自分はだいじょうぶ」とは思わないで！

人には危険が目前にせまっても、「たいしたことはない」とか「自分はだいじょうぶ」と思いたがる傾向があります。こうした気持ちにまどわされずに、危険のサインを見つけたらすぐに身を守る行動をとりましょう。

油断はぜったいに禁物じゃぞ。



5

積乱雲が近づいてくるときのサイン

積乱雲が近づいてくるときには、特ちょう的なサインがあります。



空が暗くなる



冷たい風が吹いてくる



雷が見える・聞こえる



このような天気の変化に気づいたら、なるべく外に出ないか、すぐにじょうぶな建物にひなんしましょう。

積乱雲が近づくのを感じたら

「空が暗くなる」「冷たい風が吹いてくる」「雷が見える・聞こえる」などの積乱雲が近づくサインを感じたら、まもなく急な大雨や雹が起きます。雹がおそってくる場合もあります。鉄きんコンクリートのビルなど、すぐに近づくのじょうぶな建物の中へ入りましょう。

大雨がふると、地下に水が流れ込むことがあるので、地上より上の階にいるようにしましょう。雷のときは車や列車の中も安全ですが、電車のときは車も飛ばされてしまうので危険です。また、飛んできたものが窓を突き破り、部屋にガラスが飛び散るおそれがあるので、意に近づいてはいけません。テーブルの下など、飛んでくるものから身を守る場所へひなんしましょう。

雷が聞こえなくなっても20分くらいは、むやみに外に出ないでください。



5

まとめ

この映像を見て、気づいたことや感じたことを書いてください。

Blank lined area for writing notes.

学校や友だちの家、習い事など、あなたがよく行く場所の行き帰りに、積乱雲が近づくサインを感じたら、どうすればよいと思いますか？ 家族とも話し合ってみましょう。

Blank lined area for writing notes.

お問い合わせ先：気象庁 予報部 予報課 気象防災推進室
〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
電話：03-3212-8341（代表）
FAX：03-6689-2917（国の不自由な方向付）
<http://www.jma.go.jp/>

監修：全国学校安全教育研究会会長 板橋区立志村第一小学校校長 矢崎良明氏

7

上に添付している解答・解説と同じで解答部分が空欄になっている A4 サイズのワークシートを用意していただきました。

「急な大雨・雷・竜巻から身をまもろう」の授業で学んだこと

ぼくが「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」の授業で学んだことは、3つあります。

1つ目は大雨のことです。

大雨がいった時、橋の下にひなんしたらダメだということや、川の上流を見て川が増水しないか確認にんするなどのことを学びました。

2つ目は雷のことです。

金杵をつけていなくても雷が落ちるということを知りました。10秒で音が来たら安心だと思っていたけど、3.4kmしかはなれていないということも学びました。

3つ目は竜巻です。

まどに近づいたらダメということや、かんじょうな建物に入るということも学びました。

そしてそのすべての原因の積乱雲は、気圧が高く、熱い空気が空で冷やされてできるものだ、と学びました。

「急な大雨・雷・竜巻から身をまもろう」の授業で学んだこと

ぼくは「急な大雨・雷・竜巻から身をまもろう」の授業で気象台の人は気象を観測するだけでなく、イベントや、防災授業、災害などの解説などをしているのにびっくりした。東京にある気象庁を中心に24時間観測するのでとてもたいへんな仕事というのが分かった。しかも気象台は、気象を観測するだけでなく、地球環境のかんしゃ観測をするので地球のことを考えている良い仕事だと思った。積乱雲がきたときは竜巻、大雨、雷に気を付け、積乱雲の前兆をしっかりと覚えて、安全にすごしたいです。